

1. 応募の動機・理由を簡単にご記入ください。

昔より協働体験が少なく、コミュニケーションをとる機会が減ってきている現状の中で育ってきた中学生に対して、学校活動の中に「災害時を意識した住まいと暮らしの教育」を取り入れることで、協働の意識ややる気、自分のすべきことを考えることにつながる活動の場を設定したいと考えた。「考える力」「生きる力」を養い、人との関わりを体験し、「どのように暮らすのか」について自分のこととして考えてもらいたい。災害は身近に起こる可能性もある。住まう人の立場になり、自分に置き換えて「どのように暮らしたいのか」を考えながら「災害時を意識した住まいと暮らしを考える」ことで、住まいや住まいを取り巻くもの考える授業を設定する。図書館の利活用と ICT 機器の活用をしながらアクティブな学びとしていく。多くの方と情報を共有し、情報交換、ご指導をいただきたい。

2. 学習予定の概要を以下の3点について記入してください。

(A 中心となる活動。 B 授業の狙いと特徴。 C 学習の流れ(指導計画) )

A 中心となる活動は、

「災害時を意識した住まいと暮らしを考える」ことに関連するいくつかのテーマを各自に与え、

(1) 図書館の利活用をした調べ学習とジグソー学習を行う。

(2) (1) の結果を各班で活かしながらグループ活動で各班のテーマについて話し合い・調べ・検討する。その結果を ICT 機器を用いた画像・音声プレゼンテーション作品にまとめ・発表する。

B 授業の狙いと特徴は、

「どのように暮らしたいのか」を考えながら「災害時を意識した住まいと暮らしを考える」ことで、暮らしをデザインできるようにするための「考える場」を設定する。人間関係における居心地の良い距離や自分のことだけでないまち全体のこと、治安や将来にわたって永続的に皆にかかわっていくものや意識など、自分の考えだけでなく他者の考え方や社会の考え方などを知り、科学的、総合的に考えを深める機会とする。そのためにグループ学習、情報の多い図書館の利活用を取り入れる。「住」についての基礎知識を図書館利活用をした調べ学習を行い、そこにジグソー学習を取り入れながら、幅広く、深く学習ができるように設定する。

「発砲ポリスチレンを構造材としたドーム型建造物」を仮設住宅に立てるとしたら、どのような距離感で室内を使うのか、また、建造物をつなげるのか、コミュニティをどのように配置して作るのが「生活者の視点」からは暮らしやすいのか考える。現実的に工期が短く、価格も安いものを設定することで建造物に対する現実味を持てるようにする。中学生として自分の家を相対化して考えることをこのドーム型の家を媒介として行う。

C 学習の流れ(指導計画)は、(全 8 時間)

①導入 (2 時間) 「住」についての基礎知識を図書館の利活用をした調べ学習

②知識のエキスパートとして各自が活動するジグソー学習 (1 時間)

③それぞれの班のテーマによるグループ学習・インターネットや図書館の利活用をした調べ学習・話し合い (2 時間)

④各班のまとめを iPad を用いて 1 人 1 枚サブテーマごとに作成。学習ソフト (loilo ノートソフト) を使用して班のプレゼンテーション作品にまとめる。(1 時間)

⑤発表 クラス全員のプレゼンテーション作品をみる。(1 時間)

⑥まとめ 「災害時を意識した住まいと暮らしを考える」ことで、「生活者の視点」から本当に大切な暮らしの条件は何か考えることができたか。話し合い・知恵を出し合い・同じ目的を解決する作業から、暮らしをデザインできるようになる準備ができていたかを生徒のプレゼンテーション作品をもとに考え、解説を加える。(1 時間)

3. 今までに住まいやまちに関する学習を行ったことがありますか。

○ 1 ある                      2 ない

1 の方は学習の内容について、ガイドラインの該当する領域に○をつけてください (複数可)

1 人と住まい

2 住まいの空間と構成

3 住まいと社会

○ 4 住まいと環境

その他特記事項がありましたらお書きください